

低コストで効率的な森林整備(造林・保育)の推進・普及に向けた取組

留萌南部森林管理署

【現状・課題・目的】

- 今後、主伐の増加に伴い、更新箇所が増加が見込まれる。
- 再造林や保育の一層の低コスト化が必要。
- 低コストで効率的な森林整備の推進・普及を図る。

【これまでの取り組みや成果】

- 下刈2回刈を省略化<H25~H27の取組>
 - ・ 振興局にも生長データ提供。
 - ・ H27技術交流発表会で紹介。
- 一貫作業システムとコンテナ苗の活用による低コスト造林<H26の取組>
 - ・ 誘導伐(更新伐)コンテナ苗の現地検討会を開催し、留萌地域で初の一貫作業システムを紹介)
- <H28~29の取組>
 - ・ 一貫作業システムによる造林の効率化・低コスト化を目的に現地検討会を開催。
※現地検討会や意見交換を積み重ね、民有林への普及に向けた取組を実施。



【平成30年度の取組結果】

<低コストな森林整備>

- コンテナ苗植栽4年後の現地見学会の開催(10月)
 - ・ コンテナ苗の安定需給協定の紹介。
 - ・ コンテナ苗の成長調査の結果について意見交換を実施した。



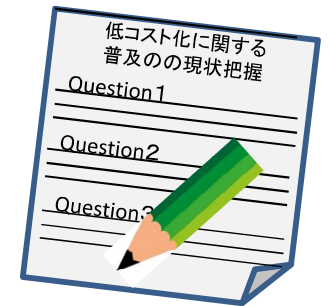
<留萌地域の森林整備の現状分析>

- 列状間伐施業の推進
H30年度留萌南部森林管理署地域の間伐面積(保育間伐を除く) ha
・ 搬出間伐列状間伐の実施率は58%であり定性間伐が主であるが列状間伐のメリットを紹介する等、列状間伐列状間伐への理解を深める必要がある。

間伐方法	割合 (%)
定性間伐	58%
列状間伐	42%
- 下刈2回刈の省力化
・ 管内の一部民有林では、画一的に下刈を10年間2回刈している箇所があるため当署の下刈2回刈を省略した事例等を見学会で紹介する等、下刈の省力化について理解を深める必要がある。
- 地拵えコストの縮減
・ 地域の普通地拵えのコストは251千円/ha、地拵えコストを縮減に向けて大型機械地拵えの普及へ向けて現地見学会を継続開催等による技術情報発信が必要。

【今年度の取り組みで目指すところ】

国が先駆的に実施している一貫作業システム、下刈りの省力化など森林整備の省力化、低コスト化などの取組について、現地検討会等で、聞き取り調査の分析結果を踏まえた分かりやすい資料等による積極的な情報発信、技術支援等を行い留萌地域への普及を目指す。



【今後の目標】

- ・ 地域に向けて積極的な情報発信や技術支援等を行うことにより、森林組合や民有林における低コストで効率的な森林整備を推進・普及させる。